

**1. 第3期中期目標期間における国立大学法人運営費交付金の重点支援について**

第3期中期目標期間における国立大学法人運営費交付金（以下「運営費交付金」という。）については、各大学共同利用機関法人が、その特性に応じて大学全体を俯瞰し、関連分野をはじめとする学術研究全般の研究機能を更に強化するため、予算上、3つの重点支援の枠組みを設けて重点支援を行うこととし、各大学共同利用機関法人はそれぞれの機能強化の方向性に沿って行う様々な取組について、その内容を踏まえて取組別に枠組みを選択しています。

**●大学共同利用機関法人に係る3つの重点支援の枠組み**

**【重点支援①】**

主として、大型装置等を用いて世界の学術研究の中核として国際協力・国際共同研究などにより先導的なモデルとなる研究システムの創出につながる研究力強化の取組を支援する。

**【重点支援②】**

主として、特定分野における大学共同利用機関を中核とする大学間連携やネットワーク形成による新たな学問分野の創成に資する取組など、大学の枠を越えた研究拠点を形成・強化する取組を支援する。

**【重点支援③】**

主として、大学全体の学術研究の基盤構築や運営等を効果的・効率的に推進する取組など、強み・特色ある分野の教育研究を基礎として大学全体を支える研究環境基盤を構築・強化する取組を支援する。

※国立大学においては、各大学が「大学全体で1つの枠組みを選択」しているが、大学共同利用機関法人においては「各法人が実施する取組毎に枠組みを選択」していることに留意。

重点支援とは、各法人から拠出された財源（「機能強化促進係数」に基づく金額を運営費交付金から拠出）を評価に基づき再配分する仕組みです。

令和3年度における大学共同利用機関法人に係る運営費交付金の重点支援に当たっては、昨年度同様、各法人から提案のあった取組について、「科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会国立大学法人運営費交付金等（学術研究関係）に関する作業部会」（以下、「作業部会」とする）（名簿：別紙1のとおり）の有識者による評価を行った上で配分することとしており、この度、その評価結果を公表するものです。

**2. 評価の対象について**

各法人から提案のあった取組には、その達成状況を判断するために評価指標（KPI）が設定されています。（以下文中では「KPI」とする）このKPI設定の適切性や、進捗状況を確認し、取組毎に評価を行うこととしました。令和3年度において評価対象となる取組数は以下のとおりです。

**継続事業** ※令和元年度以前から実施している取組

	組織整備		重点支援①		重点支援②		重点支援③		合計	
	取組数	KPI数	取組数	KPI数	取組数	KPI数	取組数	KPI数	取組数	KPI数
人間文化研究機構	2	8	2	7	5	20	1	4	10	39
自然科学研究機構	2	8	0	0	11	43	1	3	14	54
高エネルギー加速器研究機構	2	7	0	0	2	6	1	3	5	16
情報・システム研究機構	1	2	1	4	3	13	6	20	11	39
計	7	25	3	11	21	82	9	30	40	148

**新規事業** ※令和3年度から実施予定の取組はなし。

### 3. 評価項目の評価の観点について

#### 1. 評価指標（KPI）の適切性の確認について [評価対象：新規事業，継続事業]

各法人が策定した 148 の KPI ごとに，次の評価項目の観点による確認を通じて，総合的に評価を行いました。なお，継続事業においては，昨年度評価からの継続性も踏まえて確認しております。

##### 【評価項目①】評価指標（KPI）の設定が適切か

具体的には，KPI の適切性及び目指す水準の妥当性等において，以下の3つの観点を満たしているか。

（3つの評価の観点）

- ・評価の焦点化が図られるよう適切に KPI が設定されているか。
- ・事後の客観的な検証が可能な指標となっており，成果・効果を測ることができる指標として設定されているか。
- ・取組の推進によって目指す成果等の水準について，これまでの実績や実現可能性も踏まえた考え方が適切であるか。なお，その目指すべき目標値等については，社会からの期待を踏まえ大学共同利用機関法人が目指すべき成果等の水準として適切であるか。

#### 2. 評価指標（KPI）の進捗状況の確認について [評価対象：継続事業※]

各 KPI の進捗状況について，具体的な目標値等以上の実績値等を達成しているかどうかを中心に，設定された KPI ごとに評価を行いました。

##### 【評価項目②】令和元年度の実績値について

- ・設定された目標に向けて，着実に進捗しているか。
- ・着実に進捗していない場合（数値が減少，変化が見られない場合），今後の改善に向けた具体的な対応方策が示されているか。

※ 継続事業のうち，令和2年度から開始する事業については，令和元年度の実績値がないことから評価対象外とする。

## 4. 評価項目ごとの評価方法等について

評価項目ごとに、以下に示す評点より確認を行いました。

### 1. 評価指標（KPI）の適切性の確認について

(1) 各法人が作成した調書等において、3つの評価の観点（p 2 参照）を満たしているかどうかで判断し、「a 評点」、「b 評点」、「c 評点」、「d 評点」の4段階評価。

(2) 具体的な評点

評点	具体的な評点内容
a 評点	・ 3つの評価の観点すべてを満たしており、特に目指す成果等の水準について、特筆して高く意欲的な目標と判断できる。
b 評点	・ 3つの評価の観点すべてを満たしている。
c 評点	・ 3つの評価の観点いずれか1つの観点を満たしていない。
d 評点	・ 3つの評価の観点のうち2つ以上の観点を満たしていない。 ・ 評価の観点いずれかにおいて重大な課題がある。

### 2. 評価指標（KPI）の進捗状況の確認について

(1) 基準値及び年度ごとの目標値等以上の実績値等を達成しているかどうかを中心に判断し、「a 評点」、「b 評点」、「c 評点」、「d 評点」の4段階評価。

(2) 具体的な評点

評点	具体的な評点内容
a 評点	基準値及び令和元年度の目標値以上の実績値が示されている上で、以下のいずれかを満たしている。 ・ 基準値、年度ごとの目標値及び最終年度の目標値等に照らし、実績値が著しく進捗している場合。 ・ その他、各種政府方針等を踏まえ、実績値が非常に高い場合。
b 評点	・ 基準値及び令和元年度の目標値以上の実績値が示されている。
c 評点	・ 目標値に達していないが、今後の改善に向けた具体的な対応方策が示されている。
d 評点	以下のいずれかに該当している。 ・ 実績値が目標値に達せず、今後の改善に向けた具体的な対応方策が示されていない。 ・ 基準値、各年度の目標値や平成 28 年度～令和元年度の実績値が示されていない。 ・ 令和元年度実績値が基準値を下回っているなど、実績値が非常に低い。 ・ 評価項目①が d 評点

※ 今回の評価では、新型コロナウイルス感染症の影響を勘案した評価を実施。  
令和元年度の実績値が令和元年度の目標値未満の場合において、以下を全て満たすものについては、「b 評点」を付すこととする（満たさないものについては、通常の見直し）。

- ・ 目標値に達しない理由が新型コロナウイルス感染症関連の影響に由来するものと認められ、具体的な影響値が明らかとなっている
- ・ 新型コロナウイルス感染症関連の影響によって実施困難となった取組について、代替措置等の具体的な対応方策が示されており、十分な成果・効果が得られる見通しとなっている

## 5. 評価結果について

各法人から提案のあった、40 の取組の達成状況を判断するための、148 の KPI を対象として、評価項目ごとの評価の観点に基づいて確認を行い、評価を行いました。その評価結果について、集計した結果は次のとおりです（各大学共同利用機関法人の評価結果一覧：別紙2）。

評価項目ごとの評点	a 評点	b 評点	c 評点	d 評点	合計	評価対象外
評価項目① 「評価指標の適切性」	0	148	0	0	148	-
評価項目② 「令和元年度の実績を踏まえた進捗状況」	24	111	0	0	135	13

## 6. 評価結果の予算への反映について

KPI の評価結果に基づき、当該法人の評価対象経費を基礎として、評価項目②における各 KPI の評価結果について、以下の得点換算表に基づき得点化し、取組ごとの平均点を算出して、各取組の平均点を合算した数値を取組数で除し、法人の平均点を算出します。各法人の平均点と後掲の配分表に基づき配分率を決定し、評価対象経費に配分率を乗じることで配分額を算出しています。

なお、メリハリある再配分を実施する観点から、令和3年度予算における運営費交付金の重点支援に係る評価の対象経費については、「機能強化促進係数」により各法人から拠出された金額を含み、国立大学の重点支援とあわせて約 200 億円を評価対象経費としました。

※注 評価項目①（評価指標の適切性）の評価結果については、予算への反映は行っていません。

(得点換算表)

評点	得点
a	10
b	6
c	2
d	0

(配分表)

配分率	法人名
102.5%	人間文化研究機構
97.5%	自然科学研究機構
95%	高エネルギー加速器研究機構
105%	情報・システム研究機構

【参考】法人の得点計算のイメージ

A法人		評価項目②	得点換算	取組平均	A法人平均
取組1	指標①	a	10	6	4.5
	指標②	c	2		
取組2	指標③	d	0	3	
	指標④	b	6		

国立大学法人運営費交付金等（学術研究関係）に関する作業部会委員名簿

(敬称略, 五十音順)

家 泰弘 日本学術振興会理事

稲永 忍 長崎県公立大学法人理事長

井野瀬 久美恵 甲南大学文学部教授

勝 悦子 明治大学政治経済学部教授、  
国際大学協会（IAU）理事

豊田 長康 鈴鹿医療科学大学長

西村 いくこ 甲南大学・特別客員教授、  
日本学術振興会学術システム研究センター・副所長

松井 恒雄 中部大学人間力創成総合教育センター教授

龍 有二 北九州市立大学副学長

## 令和3年度 国立大学法人運営費交付金の重点支援の評価結果 (大学共同利用機関法人)

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	(参考) 評価項目① 「評価指標の適切性」	評価項目②【更新する】 「令和元年度の 実績を踏まえた 進捗状況」	得点 換算	取組 平均	法人 平均		
87	人間文化研究機構	組織整備 2	1	b	b	6	6.0	6.63		
				b	b	6				
				b	b	6				
				b	b	6				
		組織整備 3	2	b	b	6	6.0			
				b	b	6				
				b	b	6				
				b	b	6				
		2	3	b	b	6	6.0			
				b	b	6				
				b	b	6				
				b	b	6				
		2	4	b	b	6	7.0			
				b	b	6				
				b	b	6				
				b	a	10				
		2	5	b	b	6	8.0			
				b	a	10				
				b	b	6				
				b	a	10				
		3	6	b	b	6	7.0			
				b	a	10				
				b	b	6				
				b	b	6				
		2	7	b	b	6	6.0			
				b	b	6				
				b	b	6				
				b	b	6				
		2	8	b	b	6	6.0			
				b	b	6				
				b	b	6				
				b	b	6				
		1	9	b	a	10	7.33			
				b	b	6				
				b	b	6				
		1	10	b	b	6	7.0			
				b	a	10				
				b	b	6				
						b	b		6	

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	(参考) 評価項目① 「評価指標の適切性」	評価項目②【更新する】 「令和元年度の 実績を踏まえた 進捗状況」	得点換算	取組平均	法人平均
88	自然科学研究機構	組織整備 1	1	b	b	6	6.0	6.56
				b	b	6		
				b	b	6		
				b	b	6		
		組織整備 2	2	b	b	6	7.0	
				b	b	6		
				b	a	10		
				b	b	6		
		2	3	b	b	6	6.0	
				b	b	6		
				b	b	6		
				b	b	6		
		2	4	b	b	6	7.0	
				b	b	6		
				b	a	10		
				b	b	6		
		2	5	b	b	6	6.0	
				b	b	6		
				b	b	6		
				b	b	6		
		2	6	b	a	10	9.0	
				b	b	6		
				b	a	10		
				b	a	10		
		2	7	b	b	6	6.0	
				b	b	6		
				b	b	6		
				b	b	6		
		2	8	b	b	6	6.0	
				b	b	6		
				b	b	6		
				b	b	6		
		2	9	b	b	6	6.0	
				b	b	6		
				b	-	-		
				b	b	6		
		2	10	b	b	6	6.0	
				b	b	6		
				b	b	6		
				b	b	6		
		2	11	b	b	6	6.0	
				b	b	6		
				b	b	6		
				b	b	6		
		2	12	b	b	6	7.0	
				b	b	6		
				b	b	6		
				b	a	10		
2	13	b	b	6	7.33			
		b	a	10				
		b	b	6				
3	14	b	-	-	-			
		b	-	-				
		b	-	-				



法人番号	法人名	重点番号	取組番号	(参考) 評価項目① 「評価指標の適切性」	評価項目②【更新する】 「令和元年度の 実績を踏まえた 進捗状況」	得点換算	取組平均	法人平均
89	高エネルギー加速器 研究機構	組織整備 2	1	b	a	10	7.33	6.33
				b	b	6		
				b	b	6		
		組織整備 2	2	b	-	-	-	
				b	-	-		
				b	-	-		
		2	3	b	b	6	6.0	
				b	b	6		
				b	b	6		
		3	4	b	b	6	6.0	
				b	b	6		
				b	b	6		
		2	5	b	b	6	6.0	
				b	b	6		
				b	b	6		
90	情報・システム研究機構	組織整備 2	1	b	b	6	6.0	7.07
				b	b	6		
		組織整備 2	2	b	a	10	8.0	
				b	a	10		
				b	b	6		
				b	b	6		
		3	3	b	b	6	6.0	
				b	b	6		
				b	b	6		
				b	b	6		
		1	4	b	b	6	6.0	
				b	b	6		
				b	b	6		
				b	b	6		
		3	5	b	a	10	9.0	
				b	a	10		
				b	b	6		
				b	a	10		
		3	6	b	-	-	-	
				b	-	-		
				b	-	-		
				b	-	-		
		3	7	b	b	6	8.0	
				b	a	10		
		2	8	b	b	6	8.4	
				b	a	10		
				b	a	10		
				b	b	6		
				b	a	10		
		2	9	b	b	6	6.0	
b	b			6				
b	b			6				
b	-			-				
3	10	b	b	6	6.0			
		b	b	6				
		b	b	6				
3	11	b	b	6	7.33			
		b	b	6				
		b	a	10				

# 令和3年度 国立大学法人運営費交付金の重点支援の評価結果(大学共同利用機関法人)

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点  (中段) 基準値  (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)			
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度					
87	人間文化研究機構	2 (組織整備)	1	新たな人文系国際共同研究システムを創出する「総合人間文化研究推進センター」の設置	「総合人間文化研究推進センター」は、当該分野におけるナショナルセンターである機構内の6機関が相互に連携し、さらに異分野との連携を通じて、人文系研究を刷新することを目的として、センターの発足に合わせ、平成28年度から基幹研究プロジェクトを開始した。同プロジェクトはその目的等に応じて、「機関拠点型」、「広領域連携型」、「ネットワーク型」、以上3つに類型化し、推進する。この「基幹研究プロジェクト」の推進を通じて、人文系分野の新たな共同研究モデル及び、教育プログラムを連携大学と共同開発し、これらの提供をもって大学の機能強化に貢献する。また、「総合情報発信センター」との連携を通じて学界・社会との応答力を高め、共創的な研究を実現する。さらに、「基幹研究プロジェクト」の複合的展開として、歴史文化資料の調査研究と災害時のレスキュー活動を目的とする大学間ネットワーク事業を推進する。本事業の推進にあたっては、大学共同利用機関法人としての立場を踏まえながら、特に学術的・社会的要請に応じたプロジェクト推進、大学の機能強化に対する貢献、組織や分野の枠を超えた国内外の研究ネットワークの形成、プロジェクトの推進を通じた人材育成に留意し、事業達成の評価指標を設定する。	URAの配置によるプロジェクトマネジメント機能強化のための体制整備状況 数値は当該年度毎	平成27年度末	目標値 (単位:人)	20	20	22	23	27	27	b	b		
						15	実績値 (単位:人)	23	28	29	29							
						193.3%	達成状況 (率)	115.0%	140.0%	131.8%	126.1%		107.4%					
								基幹研究プロジェクトの推進に係る海外機関との連携状況 数値は当該年度毎	平成27年度末	目標値 (単位:機関)	60	60	60	60	60	60	b	b
						0	実績値 (単位:機関)	74	67	69	74							
						-	達成状況 (率)	123.3%	111.7%	115.0%	123.3%		123.3%					
								基幹研究プロジェクトに係る国際研究集会の開催状況 数値は当該年度までの累計	平成27年度末	目標値 (単位:回)	6	12	100	165	190	210	b	b
						0	実績値 (単位:回)	14	75	140	195							
						-	達成状況 (率)	233.3%	625.0%	140.0%	118.2%		92.9%					
								基幹研究プロジェクトによる研究成果の活用状況 数値は当該年度までの累計	平成27年度末	目標値 (単位:件)	2	6	95	150	175	200	b	b
						0	実績値 (単位:件)	26	70	126	189							
						-	達成状況 (率)	1300.0%	1166.7%	132.6%	126.0%		94.5%					

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
								平成27年度	目標値 (単位:件)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度			R2年度
87	人間文化研究機構	3 (組織整備)	2	新たな人文系情報発信システムを創出する「総合情報発信センター」の設置	総合情報発信センターは、学術的・社会的要請に応え、人間文化に関する研究資源や研究成果を発信して大学の機能強化に貢献し、その社会的意義を広く発信する。機構内機関の研究情報はもとより、法人の枠を超えて国内外の多様な大学等研究機関と連携し、研究情報を広く発信する。またセンターの業務を運用、活用した人文知コミュニケーター育成に組織的に取り組むとともに評価体制を整備し、新たな人文系情報発信体制を拡充する。	機構が公開する「高度連携システム」のRDFデータ件数 数値は当該年度までの累計	平成27年度	目標値 (単位:件)	30,000	60,000	300,000	500,000	1,000,000	2,000,000	b	b
							0	実績値 (単位:件)	30,067	297,223	303,202	930,481				
							-	達成状況 (率)	100.2%	495.4%	101.1%	186.1%		46.5%		
						インターネットを活用した研究状況・成果等の発信状況 数値は当該年度までの累計	平成27年度	目標値 (単位:回)	60	360	660	960	1,260	1,560	b	b
							6	実績値 (単位:回)	179	657	879	1,136				
							14650.0%	達成状況 (率)	298.3%	182.5%	133.2%	118.3%		72.8%		
						人文知コミュニケーターの採用状況 数値は当該年度までの累計	平成27年度	目標値 (単位:人)		2	3	4	5	6	b	b
							0	実績値 (単位:人)		2	4	6				
							-	達成状況 (率)		100.0%	133.3%	150.0%		100.0%		
						国内外でのシンポジウム等の開催を通じた社会に対する研究成果の還元状況 数値は当該年度までの累計	平成27年度	目標値 (単位:回)	30	60	90	200	220	240	b	b
							20	実績値 (単位:回)	94	141	187	228				
							935.0%	達成状況 (率)	313.3%	235.0%	207.8%	114.0%		95.0%		

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
87	人間文化研究機構	2	3	人間文化研究機構における博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化	本事業は、大学共同利用機関法人である当機構が博物館機能を有する強みを生かして、機構の機関と大学等研究機関が連携しつつ、博物館および展示を活用して人間文化に関する最先端研究を可視化し、学界や社会との共創により研究を高度化して新領域創成を図る取組みである。本事業は平成28年度に設置した「総合情報発信センター」と「総合人間文化研究推進センター」が連携して推進する。	新領域創成型の展示の開催状況 数値は当該年度までの累計	平成28年度末時点	目標値 (単位: 件)		12	24	48	65	70	b	b
							0	実績値 (単位: 件)		19	39	60				
							-	達成状況 (率)		158.3%	162.5%	125.0%		85.7%		
						HPでの情報発信 数値は当該年度までの累計	平成28年度末時点	目標値 (単位: 回)		50	100	150	216	260	b	b
							0	実績値 (単位: 回)		56	121	172				
							-	達成状況 (率)		112.0%	121.0%	114.7%		66.2%		
						他機関・学会との連携状況 数値は当該年度までの累計	平成28年度末時点	目標値 (単位: 件)		20	45	92	107	120	b	b
							0	実績値 (単位: 件)		27	77	97				
							-	達成状況 (率)		135.0%	171.1%	105.4%		80.8%		
						研究者・市民とのフォーラムの開催状況 数値は当該年度までの累計	平成28年度末時点	目標値 (単位: 件)		12	24	52	76	80	b	b
							0	実績値 (単位: 件)		18	47	72				
							-	達成状況 (率)		150.0%	195.8%	138.5%		90.0%		

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)		
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度				
87	人間文化研究機構	2	4	総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築	全国の大学・大学博物館等との連携のもと、歴博が従来から実施してきた人文・社会科学と自然科学の両面からの分析に加えて、さらに様々な学問分野からのアプローチにより研究することで異分野融合・連携を図り、新たな知の発見につながる「総合資料学」を創成する。そのために多様なモノ資料について研究資源と研究成果、研究資源と関連資料及び実物の所在情報等の連携を図り、高度な共同利用環境を構築する。 また、大学等と連携して3つの共同研究(「人文情報学にもとづく資料方法論研究」、「資源論的研究」、「文理融合にもとづく歴史資料の地域・教育活用研究」)を推進するとともに、特に、地域の大学と連携し、自然科学と人文・社会科学を融合させた総合的地域歴史像を導き出すための手法の検討を行う。 本事業を通じて、新たな検証可能な資源に基づいた日本歴史の再構築、大学等と連携した新たな地域歴史文化の創出が可能となる。	研究資源の共有化の機関数 数値は当該年度までの累計	平成27年度末時点	目標値 (単位:機関)	3	6	9	12	15	18	b	b	
						0	実績値 (単位:機関)	7	13	18	22						
						-	達成状況 (率)	233.3%	216.7%	200.0%	183.3%		122.2%				
							大学等の研究教育での活用状況 数値は当該年度までの累計	平成27年度末時点	目標値 (単位:機関)	3	4	14	17	20	23	b	b
						0	実績値 (単位:機関)	3	12	16	20						
						-	達成状況 (率)	100.0%	300.0%	114.3%	117.6%		87.0%				
							研究成果報告に関するシンポジウムを開催 数値は当該年度までの累計	平成27年度末時点	目標値 (単位:回)	1	2	3	4	5	6	b	b
						0	実績値 (単位:回)	1	2	3	4						
						-	達成状況 (率)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		66.7%				
							国際学会・シンポジウム等における発表件数 数値は当該年度までの累計	平成27年度末時点	目標値 (単位:件)	3	6	9	12	16	20	b	a
						0	実績値 (単位:件)	4	10	19	27						
						-	達成状況 (率)	133.3%	166.7%	211.1%	225.0%		135.0%				

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
87	人間文化研究機構	3	5	多様な言語資源に基づく総合的日本語研究の開拓	<p>本取組は、全国及び諸外国の大学・研究機関との組織的な連携により、個別の大学では収集困難な規模の多種多様な日本語資料を収集・蓄積し、それらの創造的再構築により得られる電子化言語資源を大学及び研究者コミュニティの共同利用に供することで日本語研究の国際化を促進しようとするものである。同時に、それらの多様な言語資源を分析するにあたり、これまで細分化され相互連携が少なかった種々の研究領域を融合させることにより、新たな総合的日本語研究のモデルを開拓することを目指している。</p> <p>本取組における研究プロジェクトの研究成果は、国際出版を含む印刷出版物、コーパス・データベース等の電子成果物、専門家向け及び一般向けの多様な催し等、様々なメディアにより全国及び世界に発信することを予定している。</p> <p>また、全国の大学に対して、新たに開拓する総合的研究モデルを教育プログラム化して提供することで、日本語学・言語学教育の機能強化に貢献するとともに、「包括的高度共同利用環境の整備」の取組により、各種言語資源の包括的な活用を可能にする検索システムを開発することにより、共同利用の基盤を高度化することを目指す。</p> <p>さらに、各地の消滅危機言語・方言の記録、保存を通じて、地方創生・地域活性化に貢献することも目標としている。</p>	言語資源及び研究データベースの開発・公開数 数値は当該年度までの累計	平成27年度末	目標値 (単位:件)	2	4	6	13	15	22	b	b
							0	実績値 (単位:件)	9	22	44	75				
							-	達成状況 (率)	450.0%	550.0%	733.3%	576.9%		340.9%		
						共同利用・共同研究から得られた成果の発信(国際出版) 数値は当該年度までの累計	平成27年度末	目標値 (単位:件)	2	4	4	5	5	6	b	a
							0	実績値 (単位:件)	2	7	10	12				
							-	達成状況 (率)	100.0%	175.0%	250.0%	240.0%		200.0%		
						国際シンポジウムの開催 数値は当該年度までの累計	平成27年度末	目標値 (単位:件)	1	2	3	4	5	6	b	b
							0	実績値 (単位:件)	2	5	11	14				
							-	達成状況 (率)	200.0%	250.0%	366.7%	350.0%		233.3%		
						基幹研究参加機関数 数値は当該年度までの累計	平成27年度末	目標値 (単位:機関)	125	250	375	515	655	795	b	a
							0	実績値 (単位:機関)	187	401	632	894				
							-	達成状況 (率)	149.6%	160.4%	168.5%	173.6%		112.5%		

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)		
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度				
87	人間文化研究機構	3	6	日本語言語資源の包括的・高度共同利用環境の整備	<p>実際に用いられた(作例でない)大量の言語用例データをコンピュータ上で高速かつ柔軟に検索可能とした言語資源(コーパス)(※1)を構築することによって日本語研究のインフラを整備することを国語研の基本的ミッションのひとつとしている。</p> <p>国語研は従来『日本語話し言葉コーパス』(2004年)、『太陽コーパス』(2005年)、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(2010年)、『日本語歴史コーパス平安時代編』(2013年)、『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』(2016年4月)、『国語研日本語ウェブコーパス』(2016年9月)等のコーパスを公開することでこのミッションを実現してきた。</p> <p>しかし、これら一連のコーパスは相互独立に構築され公開されてきたために、形態論情報(※2)の認定基準に異同があり、統一的に検索することができない。さらに第3期中期計画期間中には、方言コーパス、日常会話コーパスの新規構築と『日本語歴史コーパス』と『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』の拡張が予定されている。</p> <p>これらすべてのコーパスに対して統一的な形態論情報を付与することで包括的検索が可能なコーパス検索システムを開発し、さらにマルチメディアにも対応することによって、話し言葉と書き言葉、現代語と歴史的日本語、母語話者と学習者などの多様性に富んだ日本語を全体的に研究するための新しいインフラを構築する。また、この目標を達成するために、国語研が開発した形態素解析用辞書であるUniDicに新語を追加する。</p> <p>※1「言語資源(コーパス)」: 研究対象とする言語変種(例えば明治時代の総合雑誌で使われた書き言葉)において実際に用いられた用例を組織的かつ大量に収集したデータベース。現代語の書き言葉のように対象が巨大すぎて全体をデータ化することが困難な場合は、無作為抽出を行うなどして、偏りのないサンプルとなるように配慮する。現代語の場合、話し言葉のコーパスもある。</p> <p>※2「形態論情報」: 簡単に言えば「単語」のこと。データベースに格納する際の「単語」の単位(まとまり)とそれにひもづく品詞や活用の情報。日本語の場合、単語の定義が社会的に確立されていないため、国語研が独自に斉一的な単語認定基準を設定した。</p>	平成25年4月	目標値 (単位: 件(検索数))	0	0	3,000	10,000	30,000	100,000	b	b		
						0	実績値 (単位: 件(検索数))	0	0	3,063	21,230						
						-	達成状況(率)	0.0%	0.0%	102.1%	212.3%		21.2%				
								平成27年度末	目標値 (単位: 語)	0	1,000	2,000	3,000	4,000	5,000	b	a
						0	実績値 (単位: 語)	910	4,184	10,539	13,702						
						-	達成状況(率)		418.4%	527.0%	456.7%		274.0%				
								平成27年度末	目標値 (単位: 名)	30	60	90	120	150	180	b	b
						0	実績値 (単位: 名)	231	713	800	841						
						-	達成状況(率)	770.0%	1188.3%	888.9%	700.8%		467.2%				
								平成27年度末	目標値 (単位: 名)	300	600	900	1,200	1,500	1,800	b	b
						0	実績値 (単位: 名)	361	667	1,052	1,367						
						-	達成状況(率)	120.3%	111.2%	116.9%	113.9%		75.9%				

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
87	人間文化研究機構	2	7	大衆文化の通時的・国際的研究による新しい日本像の創出	1. 日本文化史総体を見直し、新しい日本像・日本文化観を創出すべく、各国との日本研究ネットワークを再構築し、世界中の日本研究者・機関と活発かつ双方向的な研究交流を実現する先進的ハブとしての国際拠点機能を強化する。 2. 日本研究の国際的展開と発信をさらに強化するために、共同利用・共同研究等を通して国内各大学と連携し、大衆文化研究を始めとする研究者ネットワークを構築する。	大学等研究機関との 学術交流協定の締結 数値は当該年度までの累計	平成27年度末	目標値 (単位:機関)	2	3	4	7	7	7	b	b
							0	実績値 (単位:機関)	3	5	6	7				
							-	達成状況 (率)	150.0%	166.7%	150.0%	100.0%		100.0%		
						国内外の日本研究に関する学会参加・発表 数値は当該年度までの累計	平成27年度末	目標値 (単位:名)	30	60	90	520	610	700	b	b
							0	実績値 (単位:名)	65	249	435	521				
							-	達成状況 (率)	216.7%	415.0%	483.3%	100.2%		74.4%		
						学術誌等への論文発表 数値は当該年度までの累計	平成27年度末	目標値 (単位:本)	25	50	75	145	180	215	b	b
							0	実績値 (単位:本)	49	79	117	148				
							-	達成状況 (率)	196.0%	158.0%	156.0%	102.1%		68.8%		
						他機関共同研究者の共同研究への参画 数値は当該年度までの累計	平成27年度末	目標値 (単位:名)	250	500	750	2,200	2,600	3,000	b	b
							0	実績値 (単位:名)	634	1,262	1,833	2,468				
							-	達成状況 (率)	253.6%	252.4%	244.4%	112.2%		82.3%		



法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
87	人間文化研究機構	2	8	「国際日本研究」コンソーシアムによる国内外研究機関の連携構築	「国際日本研究」や「国際日本学」を掲げる大学等研究機関の研究・教育に係るニーズ(需要)をくみ上げ、相互の連携協力を強化するため、新たに「国際日本研究」コンソーシアムを結成する。コンソーシアムでは、わが国における学際的共同研究の一層の推進、国際共同ワークショップ等の開催や若手研究者の育成等に取り組んでいく。また、このコンソーシアムと海外研究者ネットワークとを結びつけることで、「国際日本研究」を世界に発信する国際的研究拠点としての国際日本文化研究センターを更に位置づけていく。	国際共同ワークショップの開催 数値は当該年度までの累計	平成29年度末	目標値 (単位:回)			1	6	9	10	b	b
							0	実績値 (単位:回)			3	8				
							-	達成状況 (率)			300.0%	133.3%		80.0%		
						国外の日本研究に関する学会への参加・発表 数値は当該年度までの累計	平成29年度末	目標値 (単位:件)			1	7	10	12	b	b
							0	実績値 (単位:件)			4	7				
							-	達成状況 (率)			400.0%	100.0%		58.3%		
						コンソーシアム所属の大学院生による国外の日本研究に関する学会等への参加・発表 数値は当該年度までの累計	平成29年度末	目標値 (単位:人)			5	40	50	55	b	b
							0	実績値 (単位:人)			18	45				
							-	達成状況 (率)			360.0%	112.5%		81.8%		
						コンソーシアムによる共同研究の採択・実施 数値は当該年度までの累計	平成29年度末	目標値 (単位:件)			1	2	3	3	b	b
							0	実績値 (単位:件)			3	6				
							-	達成状況 (率)			300.0%	300.0%		200.0%		

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段)基準時点 (中段)基準値 (下段)基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
								平成27年度末	目標値 (単位: 言語)	2	3	4	6			8
87	人間文化研究機構	1	9	アジアの多様な自然・文化複合に基づく未来可能社会の創発	地球環境問題と自然災害のホットスポットであるアジアを重点対象地域に、プログラム-プロジェクト制のもとで問題解決へ向けた国際共同研究を統合的に推進し、さらに国際機関・組織との連携強化により、学際・超学際国際的拠点としての機能を強化する。	多様な言語による研究成果発信言語数 数値は当該年度までの累計	0	実績値 (単位: 言語)	2	8	10	10			b	a
							-	達成状況 (率)	100.0%	266.7%	250.0%	166.7%		100.0%		
							平成27年度末	目標値 (単位: 人)	690	894	1,098	1,302	1,506	1,710		
						プロジェクト参加者状況 数値は当該年度までの累計	0	実績値 (単位: 人)	787	1,039	1,361	1,568			b	b
							-	達成状況 (率)	114.1%	116.2%	124.0%	120.4%		91.7%		
							平成27年度末	目標値 (単位: % )	10	10	15	15	15	15		
						外国人研究者(研究員含む)の割合 数値は当該年度毎	10	実績値 (単位: % )	10.5	19.6	22.2	28.6			b	b
							222.0%	達成状況 (率)	105.0%	196.0%	148.0%	190.7%		190.7%		

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
								平成27年度末	目標値 (単位:レコード)	実績値 (単位:レコード)	達成状況 (率)	140,000	300,000			460,000
87	人間文化研究機構	1	10	人類の文化資源に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築	国内外の大学・研究機関・博物館等と学術協定を締結し、国際的頭脳循環のハブとなる拠点の水準を整えつつ、文化の担い手も交えて、人類の文化資源に関する国際共同研究プロジェクトを実施することによって、新たな情報の付加や情報の高度化並びに研究成果の多言語化を行う。それとともに、研究情報のみならず文化の担い手の知識も集積できるフォーラム機能を持つ情報ミュージアムをオンライン上に構築し、データ・コンテンツを公開することでデータベースの運用を図る。これにより文化資源情報の地球規模での共有化と共同利用化を実現する。	公開したデータ・コンテンツ数 数値は当該年度までの累計	平成27年度末	目標値 (単位:レコード)	140,000	300,000	460,000	620,000	760,000	920,000	b	b
							0	実績値 (単位:レコード)	150,812	396,908	603,098	870,299				
							-	達成状況 (率)	107.7%	132.3%	131.1%	140.4%		94.6%		
						外国人研究者の参画 (招請及び受け入れ) 数値は当該年度までの累計	平成27年度末	目標値 (単位:名)	17	34	51	68	83	97	b	a
							0	実績値 (単位:名)	18	103	170	236				
							-	達成状況 (率)	105.9%	302.9%	333.3%	347.1%		243.3%		
						若手研究者の参画 数値は当該年度までの累計	平成27年度末	目標値 (単位:名)	10	20	30	40	45	48	b	b
							0	実績値 (単位:名)	52	100	148	188				
							-	達成状況 (率)	520.0%	500.0%	493.3%	470.0%		391.7%		
						プロジェクトレベルで外国人を含む外部評価の実施状況 数値は当該年度までの累計	平成27年度末	目標値 (単位:件)	7	15	24	31	36	40	b	b
							0	実績値 (単位:件)	8	19	28	38				
							-	達成状況 (率)	114.3%	126.7%	116.7%	122.6%		95.0%		

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
								平成27年度	目標値 (単位:夜)	25	27	29	31			33
88	自然科学研究機構	1 (組織整備)	1	新たな学問分野を創出するアストロバイオロジーセンターの整備	次世代超大型望遠鏡の完成・運用開始を見据え、第3期中期目標期間において、地球外生命の存在確認を目指すアストロバイオロジー研究を推進し、異分野が連携した国際的研究拠点化すると同時に、激しい国際研究競争に打ち勝つセンターを構築する。また、先端的な大型装置開発、共同利用・共同研究、新分野を担う若手人材育成を推進する。	装置開発・実験・観測遂行状況(観測夜数)【年間】	平成27年度	目標値 (単位:夜)	25	27	29	31	33	35	b	b
							0	実績値 (単位:夜)	32	31	38	67				
							-	達成状況 (率)	128.0%	114.8%	131.0%	216.1%		191.4%		
						国際的頭脳循環のハブとなる拠点の水準の状況(外国人研究者の招請、外国人研究者の受入れ等)(外国人研究者の割合)	平成27年度	目標値 (単位:%)	11	13	15	17	19	20	b	b
							11	実績値 (単位:%)	18	18	17	21				
							190.9%	達成状況 (率)	163.6%	138.5%	113.3%	123.5%		105.0%		
						研究者人材の多様性、流動性確保の状況(外国人研究者割合、クロスアポイントメント導入状況など)(外国人研究者及び生物系研究者の割合)	平成27年度	目標値 (単位:%)	14	17	21	25	29	33	b	b
							11	実績値 (単位:%)	27	18	25	31				
							281.8%	達成状況 (率)	192.9%	105.9%	119.0%	124.0%		93.9%		
						国内外の関連コミュニティとの連携状況(共同利用及び若手研究者派遣件数)【年間】	平成27年度	目標値 (単位:件)	29	29	46	48	53	55	b	b
							0	実績値 (単位:件)	40	45	48	49				
							-	達成状況 (率)	137.9%	155.2%	104.3%	102.1%		89.1%		

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
88	自然科学研究機構	2 (組織整備)	2	次世代の生命科学研究を牽引する生命創成探究センターの整備	機構の枠を超え、国内外の大学・研究機関及び研究者コミュニティの連携・協力により、「生きているとは何か？」という人類の根源的な問いの解明に向けて、生命構成因子の解析に加え、新しい観点による大規模な生命情報の解読および構成的アプローチを取り入れ、生命創成の探究を通じて生命の本質を理解することを目指した活動に係る国際的かつ先端的なコミュニティ横断型の異分野融合の開かれた共同利用・共同研究を推進する。	国内外の研究者による異分野融合の研究者ネットワークの構築状況(ExCELLS連携研究の連携研究グループの累計設置数)	平成29年度末	目標値 (単位:グループ)			1	2	2	2	b	b
							0	実績値 (単位:グループ)			1	2				
							-	達成状況 (率)			100.0%	100.0%		100.0%		
						極地や深海等の極限環境の研究を行っている研究機関との連携研究状況(極限環境生命探査室における連携研究課題累計実施数)	平成29年度末	目標値 (単位:課題)			0	1	2	3	b	b
							0	実績値 (単位:課題)			1	2				
							-	達成状況 (率)				200.0%		66.7%		
						異分野融合・新分野創成を推進するための、組織の枠を超えた実効的な体制の整備・運用状況(共同利用・共同研究等(ExCELLS課題研究等、萌芽的研究の発掘・分野横断型の研究会、若手啓発事業)累計実施件数)	平成29年度末	目標値 (単位:件)			10	26	43	61	b	a
							0	実績値 (単位:件)			26	64				
							-	達成状況 (率)			260.0%	246.2%		104.9%		
						多様な研究領域を包括したコミュニティに向けての研究開発成果の発信状況(共同利用・共同研究による学会・論文累計発表数)	平成29年度末	目標値 (単位:件)			10	30	52	76	b	b
							0	実績値 (単位:件)			22	73				
							-	達成状況 (率)			220.0%	243.3%		96.1%		

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段)基準時点 (中段)基準値 (下段)基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
								平成27年度	目標値 (単位:合計件数)	実績値 (単位:合計件数)	達成状況 (率)	平成27年度	目標値 (単位:回)			実績値 (単位:回)
88	自然科学研究機構	2	3	大学との連携による異分野融合・新分野創成を見据えた自然科学研究拠点の形成・強化	自然科学研究機構は、「自然科学大学間連携推進機構」(NICA)を大学の学長等と協力して構築し、大学との組織間連携を強化するとともに、大学執行部の意見も反映させた共同利用・共同研究の推進を図る。また従来の分野ごとの枠を超えた分野融合型共同研究枠を新たに設けるとともに、「自然科学共同利用・共同研究統括システム」(NOUS)を活用し、異分野融合研究を更に推進する。これらの取組を相補的に行うことにより、大学の研究力強化に寄与する。	分野融合型研究の推進のための共同研究採択件数【年間】	平成27年度	目標値 (単位:合計件数)	/	7	9	11	13	15	b	b
							0	実績値 (単位:合計件数)	/	8	13	11	/	/		
							-	達成状況 (率)	/	114.3%	144.4%	100.0%	/	73.3%		
						自然科学研究機構におけるIR機能推進体制に向けた検討会の開催回数【年間】	平成27年度	目標値 (単位:回)	3	3	3	3	3	3	b	b
							1	実績値 (単位:回)	4	4	3	3	/	/		
							300.0%	達成状況 (率)	133.3%	133.3%	100.0%	100.0%	/	100.0%		
						NICAの創設及びNICAへの大学等の参加及び運用状況(参加大学数)	平成27年度末	目標値 (単位:校)	10	10	10	10	10	10	b	b
							0	実績値 (単位:校)	12	13	13	13	/	/		
							-	達成状況 (率)	120.0%	130.0%	130.0%	130.0%	/	130.0%		
						NOUSを活用した共同利用・共同研究に関する情報発信回数【年間】	平成27年度	目標値 (単位:回)	/	1	5	7	8	9	b	b
							0	実績値 (単位:回)	/	3	6	7	/	/		
							-	達成状況 (率)	/	300.0%	120.0%	100.0%	/	77.8%		

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段)基準時点 (中段)基準値 (下段)基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
								平成27年度	目標値 (単位:件)	実績値 (単位:件)	達成状況 (率)	平成27年度	目標値 (単位:件)			実績値 (単位:件)
88	自然科学研究機構	2	4	自然科学研究における機関間連携ネットワークによる国際拠点形成	本機構の5機関の研究の水準維持・発展のため、機関・国内外の大学等と世界最先端研究の連携研究ネットワークを構築する。これにより、新たな学問分野の開拓も視野に入れて創造的研究活動を推進する。	人材育成に関するプログラムや研修会等の実施状況(関連プログラム実施件数)【年間】	平成27年度	目標値 (単位:件)	2	6	7	7	12	12	b	b
							1	実績値 (単位:件)	6	10	10	11				
							1000.0%	達成状況 (率)	300.0%	166.7%	142.9%	157.1%		91.7%		
						共同利用・共同研究数【年間】	平成27年度	目標値 (単位:件)	38	43	48	53	58	62	b	b
							35	実績値 (単位:件)	41	63	69	58				
							197.1%	達成状況 (率)	107.9%	146.5%	143.8%	109.4%		93.5%		
						国際的な協定や共同利用・共同研究等において関係する国際的な機関数	平成27年度	目標値 (単位:機関)	12	17	22	27	31	35	b	a
							10	実績値 (単位:機関)	31	29	68	82				
							680.0%	達成状況 (率)	258.3%	170.6%	309.1%	303.7%		234.3%		
						国内外の大学及び研究機関等とのセミナーや研究会等の実施回数【年間】	平成27年度	目標値 (単位:回)	8	8	9	9	28	28	b	b
							6	実績値 (単位:回)	12	10	16	27				
							266.7%	達成状況 (率)	150.0%	125.0%	177.8%	300.0%		96.4%		

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
88	自然科学研究機構	2	5	新分野の創成	新分野創成センターにおいて、ブレインサイエンス・ネットワークの構築及びイメージサイエンスの進展を図り、さらに、両分野を融合発展させた「生命創世探求センター」を平成30年度に創設した。また、「新分野探査室」において、恒常的な新分野の萌芽促進(次世代の新分野となり得る研究活動の探査及びその初期的研究成果の評価、IRに基づく研究動向調査)を行う。	次世代の新分野となり得る研究活動の探査及びその初期的研究成果の評価(対象研究グループ数)【累計】	平成27年度	目標値 (単位:研究グループ)	4	8	11	14	17	20	b	b
							1	実績値 (単位:研究グループ)	6	9	12	16				
							1200.0%	達成状況(率)	150.0%	112.5%	109.1%	114.3%		80.0%		
						萌芽的分野の支援(対象分野数)【累計】	平成27年度	目標値 (単位:分野)	1	2	2	3	3	4	b	b
							0	実績値 (単位:分野)	1	3	3	3				
							-	達成状況(率)	100.0%	150.0%	150.0%	100.0%		75.0%		
						プラズマバイオ研究分野及び先端光科学研究分野の研究実施件数【年間】	平成29年度	目標値 (単位:件)			15	15	15	15	b	b
							0	実績値 (単位:件)			17	19				
							-	達成状況(率)			113.3%	126.7%		126.7%		
						プラズマバイオ研究分野及び先端光科学研究分野における共同研究参加者数【年間】	平成29年度	目標値 (単位:人)			45	45	45	45	b	b
							0	実績値 (単位:人)			68	57				
							-	達成状況(率)			151.1%	126.7%		126.7%		



法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
88	自然科学研究機構	2	6	大学間連携による光学・赤外線天文学研究教育ネットワークの活用ーマルチメッセンジャー天文学の拠点創出ー	日本の大学と国立天文台が国内外に持つ中小口径望遠鏡を連携・活用して構築した地球規模の光学・赤外線観測ネットワークを利用し、日本の大型低温重力波望遠鏡(KAGRA)を含む国際重力波観測網が検出する重力波源、およびスーパーカミオカンデ等により検出されるニュートリノ源を中心に、突発天体及び現象の光学・赤外線領域での即時追探索や多様な追観測、長時間の連続追跡観測などを実現する。重力波、ニュートリノ、電磁波を使ったマルチメッセンジャー天文学を確立し、世界最先端の研究を実施し、大学の研究力強化に資する。	重力波源等の突発天体を観測するための連携観測実施(実施回数)【年間】	平成27年度	目標値 (単位:回)	5	5	5	5	5	5	b	a
							5	実績値 (単位:回)	12	7	11	19				
							220.0%	達成状況 (率)	240.0%	140.0%	220.0%	380.0%		380.0%		
						マルチメッセンジャー天文学研究拠点構築(マルチメッセンジャー天文学推進室設置機関数)	平成27年度	目標値 (単位:機関)	1	1	2	3	4	5	b	b
							0	実績値 (単位:機関)	0	2	2	3				
							-	達成状況 (率)	0.0%	200.0%	100.0%	100.0%		60.0%		
						大学の研究力強化及び人材育成への貢献(論文数)【年間】	平成27年度	目標値 (単位:編)	10	10	10	10	10	10	b	a
							4	実績値 (単位:編)	24	23	32	31				
							800.0%	達成状況 (率)	240.0%	230.0%	320.0%	310.0%		310.0%		
						ネットワーク形成状況(連携観測参加教員数)【年間】	平成27年度	目標値 (単位:のべ人数)	20	20	21	21	35	35	b	a
							15	実績値 (単位:のべ人数)	21	25	30	35				
							200.0%	達成状況 (率)	105.0%	125.0%	142.9%	166.7%		100.0%		

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
88	自然科学研究機構	2	7	次世代核融合炉に向けた高温超伝導の開発	将来の核融合炉への導入に向けて高温超伝導技術の高度化を進め、導体の開発、マグネットの設計、製作、試験へと展開する。これにより経済的な核融合炉の早期実現に資するとともに世界の高温超伝導を用いた核融合実験装置の実現を先導する。さらに高温超伝導実用研究のパイオニアとして様々な分野の基盤技術を構築し、広く社会に貢献する。	「大口径高磁場導体試験装置」等、超伝導関連の大型設備の高温超伝導試験への共同利用件数【年間】	平成29年度末	目標値 (単位:件)				4	5	5	b	b
							0	実績値 (単位:件)				3				
							-	達成状況 (率)				75.0%		60.0%		
						高温超伝導に関する共同研究者の受け入れ数(延べ数)【年間】	平成29年度末	目標値 (単位:人)				7	10	12	b	b
							2	実績値 (単位:人)				5				
							-	達成状況 (率)				71.4%		41.7%		
						核融合科学研究所が主催する高温超伝導に関するシンポジウム・研究会の開催数【年間】	平成29年度末	目標値 (単位:件)				3	7	10	b	b
							1	実績値 (単位:件)				3				
							300.0%	達成状況 (率)				100.0%		30.0%		
						高温超伝導に関する国内、国際学会での成果発表数【年間】	平成29年度末	目標値 (単位:件)				15	15	15	b	b
							3	実績値 (単位:件)				19				
							633.3%	達成状況 (率)				126.7%		126.7%		

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
88	自然科学研究機構	2	8	大学間連携による新規モデル生物の開発拠点形成	生物がもつ多様性や潜在的能力を明らかにし、それらを獲得したしくみを人類の叡智とするために、多様な形態的、機能的特徴を示す生物を新たにモデル化し、高次生物機能を多層的に研究する拠点を形成する。とくに遺伝子解析から遺伝子編集までをパイプライン化し、大学・研究機関に対し切れ目のない技術的支援を実施する。	新規モデル生物開発の共同利用研究及び国際共同研究の実施件数	平成27年度	目標値 (単位:課題)	4	4	4	4	4	4	b	b
							4	実績値 (単位:課題)	6	5	4	4				
							100.0%	達成状況 (率)	150.0%	125.0%	100.0%	100.0%		100.0%		
						新規モデル生物に関する技術講習会の定期開催件数	平成27年度	目標値 (単位:回/年)	1	1	1	1	1	1	b	b
							1	実績値 (単位:回/年)	1	0	2	2				
							200.0%	達成状況 (率)	100.0%	0.0%	200.0%	200.0%		200.0%		
						学際分野の広がり状況や異分野間の連携推進状況、他機関・関連学会への協力状況(新規モデル生物開発関連の研究會開催件数)	平成27年度	目標値 (単位:回/年)	1	1	1	1	1	1	b	b
							1	実績値 (単位:回/年)	2	2	2	2				
							200.0%	達成状況 (率)	200.0%	200.0%	200.0%	200.0%		200.0%		
						萌芽(ぼうが)的研究テーマ発掘の取組状況(遺伝子発現解析を行う新しい生物種件数)	平成27年度	目標値 (単位:回/年)	1	1	1	1	1	1	b	b
							1	実績値 (単位:回/年)	4	2	3	2				
							200.0%	達成状況 (率)	400.0%	200.0%	300.0%	200.0%		200.0%		

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
88	自然科学研究機構	2	9	生物の環境適応戦略解明に向けた統合的研究	生物が変化する環境にどのように適応し進化してきたか、またどのように柔軟に適応しうるのか、生物の環境適応能力を生み出す機構について分子から個体集団レベルまで階層横断的に解明する。この解明にあたっては、強固な大学間連携によるネットワークを形成し、さまざまな研究アプローチを共有することによって、得られた大規模データを統合・解析するシステムを構築する。	生物の環境適応戦略の解明に向けた大学間連携による共同利用研究の実施件数【年間】	平成27年度-平成30年度【累計】	目標値 (単位:課題)				10	10	10	b	b
							10【累計】	実績値 (単位:課題)				10				
							-	達成状況(率)				100.0%		100.0%		
						生物の環境適応戦略の解明に向けた大学間連携推進のための国内シンポジウムあるいは研究集会の定期開催件数【年間】	平成27年度-平成30年度【累計】	目標値 (単位:回/年)				1	0	1	b	b
							2【累計】	実績値 (単位:回/年)				1				
							-	達成状況(率)				100.0%		100.0%		
						生物の環境適応戦略の解明に向けた大学間連携による共同利用研究推進および国際ネットワーク構築のための国際シンポジウムの定期開催件数【年間】	平成27年度-平成30年度【累計】	目標値 (単位:回/年)				0	1	0	b	-
							1【累計】	実績値 (単位:回/年)				0				
							-	達成状況(率)								
						生物の環境適応戦略の解明に向けた大学間連携による共同利用研究を推進するための、実効的なネットワーク体制の整備・運用に関する外部研究者との意見交換会の開催件数【年間】	平成27年度-平成30年度【累計】	目標値 (単位:回/年)				1	1	1	b	b
							3【累計】	実績値 (単位:回/年)				2				
							-	達成状況(率)				200.0%		200.0%		

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
88	自然科学研究機構	2	10	超高磁場磁気共鳴画像装置を用いた双方向型連携研究によるヒト高次脳機能の解明	脳機能イメージング等の飛躍的な進歩により、脳科学が従来の断片的観測から脳機能をトータルで見る機能的観測へと急速に移行する中、わが国が世界最先端の研究を先導していくため、超高磁場MRIを保有する大学共同利用機関である生理学研究所が、国内外の研究機関とネットワークを形成することでMRI研究の基盤を構築し、全国の大学等の利用に供すると共に、超高磁場MRIを駆使できる人材を養成する。	研究会開催状況(MRI研究会開催件数) 【年間】	平成27年度	目標値 (単位:回)	1	1	1	1	1	1	b	b
							1	実績値 (単位:回)	2	1	1	3				
							300.0%	達成状況 (率)	200.0%	100.0%	100.0%	300.0%		300.0%		
						共同利用・共同研究により実施(公募)している研究や共同利用・共同研究者の状況(MRIを用いた共同利用研究件数) 【年間】	平成27年度	目標値 (単位:件)	20	20	20	20	20	20	b	b
							19	実績値 (単位:件)	21	20	23	23				
							121.1%	達成状況 (率)	105.0%	100.0%	115.0%	115.0%		115.0%		
						大学院教育の推進・協力等を通じた人材育成への寄与状況(大学院生受入人数) 【年間】	平成27年度	目標値 (単位:名)	2	2	2	2	2	2	b	b
							1	実績値 (単位:名)	3	0	4	2				
							200.0%	達成状況 (率)	150.0%	0.0%	200.0%	100.0%		100.0%		
						大学の枠を越えた人材や資源活用のネットワーク形成状況(MRIトレーニングコース参加人数) 【年間】	平成27年度	目標値 (単位:名)	40	40	40	40	40	40	b	b
							40	実績値 (単位:名)	43	43	40	41				
							102.5%	達成状況 (率)	107.5%	107.5%	100.0%	102.5%		102.5%		

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
88	自然科学研究機構	2	11	遺伝子改変モデル動物の表現型解析を飛躍的に高める先端技術の開発と共同利用・共同研究を推進する為の研究環境基盤の構築	遺伝子改変技術の進歩によって、様々な実験モデル動物が開発されるに至ったが、実験動物の多彩な表現型を解明するためには、分子から個体に至る高度な生理学的解析技術が必須である。生理学の最先端研究を我が国が先導していくため、岡崎共通研究施設動物実験センターを組織改編することによって機能強化し、遺伝子改変モデル動物を作成及び表現型解析の為に先端技術を開発して全国の大学等の共同利用・共同研究に供すると共に、実験モデル動物の表現型解析技術を駆使できる人材を養成することによって、我が国の大学全体に資する研究環境基盤を構築する。	ウイルスベクターの供給状況(供給件数)【年間】	平成26年度-平成29年度平均	目標値 (単位:件)				211	211	222	b	b
							211	実績値 (単位:件)				213				
							100.9%	達成状況(率)				100.9%		95.9%		
						遺伝子改変モデル動物を含む実験動物の供給状況(供給件数)【年間】	平成26年度-平成29年度平均	目標値 (単位:件)				62	62	62	b	b
							62	実績値 (単位:件)				63				
							101.6%	達成状況(率)				101.6%		101.6%		
						生理学研究所での動物実験を伴う共著論文数【年間】	平成29年度	目標値 (単位:件)				59	59	62	b	b
							59	実績値 (単位:件)				80				
							135.6%	達成状況(率)				135.6%		129.0%		
						動物実験を伴う共同利用・共同研究の実施数【年間】	平成29年度	目標値 (単位:件)				91	91	96	b	b
							91	実績値 (単位:件)				99				
							108.8%	達成状況(率)				108.8%		103.1%		

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段)基準時点 (中段)基準値 (下段)基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
								平成27年度	目標値 (単位:件)	実績値 (単位:件)	達成状況 (率)	2	2			5
88	自然科学研究機構	2	12	卓越した機能をもつ分子系の創成-協奏的分子系の研究センター形成-	豊かな自然において多様な物質循環、エネルギー変換を司っている、卓越した機能をもつ分子システムの創成に挑戦し、次世代の分子科学の創出・確立を行うため、人材の育成・輩出や共同利用・共同研究を強化し、国内外の研究ネットワーク形成を促進する。	CIMoSセミナー(アイデア・シーズ発掘とプレインストーミング)及び技術講習会の開催件数【年間】	平成27年度	目標値 (単位:件)	2	2	5	5	5	5	b	b
							3	実績値 (単位:件)	5	5	7	5				
							233.3%	達成状況 (率)	250.0%	250.0%	140.0%	100.0%		100.0%		
						オープンスペース利用状況(他機関からの研究者の利用数)【年間】	平成27年度	目標値 (単位:件)	30	30	45	50	55	60	b	b
							44	実績値 (単位:件)	95	71	63	53				
							143.2%	達成状況 (率)	316.7%	236.7%	140.0%	106.0%		88.3%		
						分子システムの最適化・探索支援状況(大学・研究機関への支援件数)【年間】	平成27年度	目標値 (単位:件)		4	4	4	4	4	b	b
							0	実績値 (単位:件)	4	4	4	5				
							-	達成状況 (率)		100.0%	100.0%	125.0%		125.0%		
						学際分野の広がり の状況や異分野間の連携推進状況、他機関・関連学会への協力状況(大学等との共同研究件数)【年間】	平成27年度	目標値 (単位:件)	25	25	40	45	50	55	b	a
							24	実績値 (単位:件)	61	93	73	72				
							304.2%	達成状況 (率)	244.0%	372.0%	182.5%	160.0%		130.9%		

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
88	自然科学研究機構	2	13	新しい分子野を開拓するメゾスコピック計測拠点の形成	分子の物質・エネルギー・情報変換能力を精緻に引き出す基盤として求められつつある革新的な計測法を開拓するメゾスコピック計測拠点を形成することで、我が国のこの分野全体の研究連携を活性化して先進性を一層高めるとともに、次世代研究者を育成する。	メゾスコピック計測に関する研究会等(研究会、セミナー、技術コース、チュートリアル等)の開催件数【年間】	平成28年度	目標値 (単位:件)		3	7	7	7	7	b	b
							0	実績値 (単位:件)		9	21	14				
							-	達成状況 (率)		300.0%	300.0%	200.0%		200.0%		
						共同利用・共同研究件数【年間】	平成28年度	目標値 (単位:件)		6	30	30	35	35	b	a
							0	実績値 (単位:件)		40	42	56				
							-	達成状況 (率)		666.7%	140.0%	186.7%		160.0%		
						他大学への教職員等の派遣件数【年間】	平成28年度	目標値 (単位:件)		12	40	40	50	50	b	b
							0	実績値 (単位:件)		58	53	51				
							-	達成状況 (率)		483.3%	132.5%	127.5%		102.0%		



法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
								令和元年度	目標値 (単位:名)	実績値 (単位:名)	達成状況 (率)	令和元年度	目標値 (単位:件)			実績値 (単位:件)
88	自然科学研究機構	3	14	物性科学分野における研究人材交流・頭脳循環拠点形成事業	我が国の科学技術力強化のためには、大学の規模に依らない教育・研究の質の保証が重要である。研究者・学生がどのタイプの大学に所属していても、物性科学研究において「戦略的研究」が推進できる環境を整えるため、クロスポイントメントを活用した研究人材交流・頭脳循環拠点を構築し、将来的には分子研及び4つのトップクラスの研究所からなる「物性科学連携研究体」へと発展させる。	本事業によって特別研究部門へ受け入れたクロスポイントメント教員(研究者)数【年間】	令和元年度	目標値 (単位:名)					2	4	b	-
							0	実績値 (単位:名)								
							-	達成状況 (率)						0.0%		
		本事業によるクロスポイントメント受け入れ教員の学会・論文発表数【年間】	令和元年度			目標値 (単位:件)					2	10	b	-		
			0			実績値 (単位:件)										
			-			達成状況 (率)						0.0%				
		本事業によって設置された研究室への他大学からの学生受入数【年間】	令和元年度			目標値 (単位:名)					2	4	b	-		
			0			実績値 (単位:名)										
			-			達成状況 (率)						0.0%				

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
89	高エネルギー加速器研究機構	2 (組織整備)	1	応用超伝導加速器センターの拡充	本事業では、加速器の産業・医療応用を推進するため、加速器研究施設を改組して、同施設の中に新たに応用超伝導加速器センターを設置する。同センターは、企業等の研究者と共同で、産業等用加速器のための要素技術開発、実証機の開発を推進するとともに、加速器の産業利用の実用化をはかり、加速器の社会貢献に寄与する。合わせて、未来を担う研究人材の育成に貢献する。	応用超伝導加速器センターに関連した成果の発表数(論文、研究会での発表等) 【年間】	平成30年7月末時点	目標値 (単位:件)				20	30	40	b	a
							0	実績値 (単位:件)				44				
							-	達成状況 (率)				220.0%		110.0%		
						共同研究の実施状況 【年間】	平成30年7月末時点	目標値 (単位:件)				2	3	5	b	b
							2	実績値 (単位:件)				4				
							200.0%	達成状況 (率)				200.0%		80.0%		
						外部資金の獲得状況 【年間】	平成30年7月末時点	目標値 (単位:件)				1	3	4	b	b
							1	実績値 (単位:件)				3				
							300.0%	達成状況 (率)				300.0%		75.0%		

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)		
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度				
89	高エネルギー加速器研究機構	2 (組織整備)	2	マルチプローブ融合領域研究の推進:量子ビーム連携研究センター形成	放射光、中性子、ミュオン、低速陽電子という4つの量子ビームを備えた世界的にもユニークな研究施設のメリットを生かして「量子ビーム連携研究センター」を創設し、新たな「発掘型共同利用」と「テーマ設定型共同研究」を推進するとともに若手人材を育成することで、これまでにないマルチプローブ連携分野を創出する。	テーマ設定型共同研究の実施数【累計】	令和元年8月末時点	目標値 (単位:件)						7	14	b	-
							0	実績値 (単位:件)									
							-	達成状況(率)						0.0%			
						マルチプローブ利用に関連した発掘型共同利用実験の申請数【累計】	令和元年8月末時点	目標値 (単位:件)					4	9	b	-	
							6 (基準時点までの5年間における「マルチプローブ課	実績値 (単位:件)									
							0.0%	達成状況(率)						0.0%			
						量子ビーム連携研究センターに関連した成果の発表数(論文、研究会での発表等)【年間】	令和元年8月末時点	目標値 (単位:報)					24	28	b	-	
							21	実績値 (単位:報)									
							0.0%	達成状況(率)						0.0%			
						量子ビーム連携研究センターに関連した学位取得者数【年間】	令和元年8月末時点	目標値 (単位:人)					16	17	b	-	
							15	実績値 (単位:人)									
							0.0%	達成状況(率)						0.0%			

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段)基準時点 (中段)基準値 (下段)基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
89	高エネルギー加速器研究機構	2	3	大学加速器連携ネットワークによる人材育成等プログラム(IINAS)	大学及びその加速器関連施設と連携してネットワークを構築し、加速器科学分野におけるグローバル人材育成に資する事業(国際スクールの開催・共同研究交流等)を実施するとともに、ネットワーク参加機関が有する加速器の性能向上・活性化を図る。	人材育成プログラム参加者数【年間】	平成30年度当初	目標値 (単位: 人)			100	250	250	250	<b>b</b>	<b>b</b>
							0	実績値 (単位: 人)			451	383				
							-	達成状況 (率)			451.0%	153.2%		153.2%		
						人材育成プログラム参加者によるプログラム内容に関連した成果の発表数【年間】	平成30年度当初	目標値 (単位: 件)			0	40	50	60	<b>b</b>	<b>b</b>
							0	実績値 (単位: 件)			0	28				
							-	達成状況 (率)				70.0%		46.7%		
						教育用加速器の活用による教育機会の拡充【年間】	平成30年度当初	目標値 (単位: 人)			5	5	5	15	<b>b</b>	<b>b</b>
							0	実績値 (単位: 任)			5	8				
							-	達成状況 (率)			100.0%	160.0%		53.3%		

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
89	高エネルギー加速器研究機構	3	4	素粒子原子核宇宙シミュレーションプログラム	ネットワーク型共同利用プログラムにより素粒子原子核宇宙分野の大規模シミュレーションプロジェクトを推進する。大規模実験・観測プロジェクトとの連携、国際共同研究を推進。	共同利用による研究成果(論文数、学会発表等) 【累計】	平成30年度当初	目標値 (単位:件)			0	2	5	10	<b>b</b>	<b>b</b>
							0	実績値 (単位:件)			0	34				
							-	達成状況 (率)				1700.0%		340.0%		
						理論・実験連携の実施状況 【累計】	平成30年度当初	目標値 (単位:件)			1	2	3	4	<b>b</b>	<b>b</b>
							0	実績値 (単位:件)			1	2				
							-	達成状況 (率)			100.0%	100.0%		50.0%		
						国際共同研究の実施状況 【累計】	平成30年度当初	目標値 (単位:件)			0	1	3	5	<b>b</b>	<b>b</b>
							0	実績値 (単位:件)			0	3				
							-	達成状況 (率)				300.0%		60.0%		

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
89	高エネルギー加速器研究機構	2	5	加速器科学文理融合研究開拓プログラム	ミュオン、放射光、中性子などの物質構造科学研究所が有する量子ビームを用いた、文理融合研究を開拓する。第1段階として、世界最高性能を持つミュオン発生装置を利用して全国各地の考古学資料・文化財に対する非破壊元素分析法を確立し、その製作時期・場所・製作手法を同定する新たな手段を提供する。また様々な量子ビームの利用の有効性を人文科学研究者と探る研究会を実施する。	査読付論文・博士論文等の件数【累計】	令和元年7月末時点	目標値 (単位:件)				2	4	6	b	b
							0	実績値 (単位:件)				4				
							-	達成状況 (率)				200.0%		66.7%		
						文理融合ネットワークを構築する為のシンポジウム開催数【累計】	令和元年7月末時点	目標値 (単位:回)				2	4	6	b	b
							0	実績値 (単位:回)				2				
							-	達成状況 (率)				100.0%		33.3%		
						文理融合に関わる研究者による学会発表の件数【年間】	令和年7月末時点	目標値 (単位:報)				5	7	10	b	b
							0	実績値 (単位:報)				6				
							-	達成状況 (率)				120.0%		60.0%		

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)		
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度				
								平成27年度末時点		平成28年度末時点		平成29年度末時点				平成30年度末時点	
90	情報・システム研究機構	2 (組織整備)	1	大学におけるデータ駆動型学術研究力強化のための大学共同利用システムの改革	機構本部に新たに戦略企画本部及びデータサイエンス共同利用基盤施設を設置し、そのもとで機構が一体となって大規模データの共有支援および解析支援事業を実施してデータサイエンスの観点から全国の大学等の研究力強化に貢献する。さらに、戦略プログラムを推進し、広角かつ長期的視点にたって機構の共同利用・共同研究システムを拡大・発展させる。	センターの設置数	目標値 (単位: センター数(累積))	3	4	5	6	6	6	b	b		
							実績値 (単位: センター数(累積))	3	5	5	6						
							-	達成状況(率)	100.0%	125.0%	100.0%	100.0%				100.0%	
						IR推進室による機構内外のデータ収集・分析数、それに基づく戦略提言数	目標値 (単位: 件/年)		データ収集・分析数: 30件以上 戦略提言数: 5件以上	データ収集・分析数: 30件以上 戦略提言数: 5件以上	データ収集・分析数: 30件以上 戦略提言数: 5件以上	データ収集・分析数: 30件以上 戦略提言数: 5件以上	データ収集・分析数: 30件以上 戦略提言数: 5件以上			b	b
							実績値 (単位: 件/年)		データ収集・分析数: 30件 戦略提言数: 5件	データ収集・分析数: 110件 戦略提言数: 5件	データ収集・分析数: 115件 戦略提言数: 7件						
							-	達成状況(率)		100.0%	100.0%	100.0%					

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
90	情報・システム研究機構	2 (組織整備)	2	大学におけるデータ駆動型学術研究力強化のための共同利用推進事業	DS施設では、生命科学分野におけるデータベース統合化を進めるライフサイエンス統合データベースセンターと、公的社会調査データ等の人間社会分野における構造化データの利用を推進する社会データ構造化センターがデータ共有事業を進めている。また、大規模生命情報解析支援を行うゲノムデータ解析支援センターとデータ融合計算を支援するプロジェクトにより、高度な大規模データ解析支援事業を進めている。	ゲノムデータ解析支援の件数(新規課題数)	平成27年度末	目標値 (単位:件(累積))	3	6	9	12	15	18	b	a
							未実施	実績値 (単位:件(累積))	12	21	26	39				
							-	達成状況(率)	400.0%	350.0%	288.9%	325.0%		216.7%		
						生命科学分野におけるデータベース統合化の支援対象としている機関の数	平成27年度末	目標値 (単位:機関(累積))	8	8	9	9	10	11	b	a
							7	実績値 (単位:機関(累積))	10	14	14	16				
							228.6%	達成状況(率)	125.0%	175.0%	155.6%	177.8%		145.5%		
						人間社会分野における構造化データ利用のためのコンソーシアムの登録組織数	平成27年度末	目標値 (単位:組織(累積))	5	5	8	12	16	20	b	b
							未実施	実績値 (単位:組織(累積))	5	5	16	16				
							-	達成状況(率)	100.0%	100.0%	200.0%	133.3%		80.0%		
						人文学オープンデータの公開件数等	平成28年度末	目標値 (単位:件(累積))		4	6	8	10	12	b	b
							未実施	実績値 (単位:件(累積))		6	9	12				
							-	達成状況(率)		150.0%	150.0%	150.0%		100.0%		



法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
90	情報・システム研究機構	3	3	研究IRハブ実現のための関連施策パッケージ	日本の研究者情報を機械可読な状態で網羅的に収集し、データサイエンス的手法を用い収集されたデータを高度に分析して、日本の研究状況の「現在」を的確に視覚化するとともに、異分野交流・女性研究者の活用・産学連携の状況など学術および社会貢献における多様な価値を客観的に把握するための新たな指標の開発や、将来新たな研究分野の創成に繋がる各分野の動向の予測を行うことをパッケージとして実現することである。	researchmapの登録業績数(レコード数)4千万件(令和3年度完了)	平成28年度末	目標値 (単位:件数(累積))		20,000,000	27,000,000	34,000,000	37,000,000	40,000,000	b	b
							18,364,432	実績値 (単位:件数(累積))		21,453,954	30,796,803	37,086,753				
							201.9%	達成状況(率)		107.3%	114.1%	109.1%	92.7%			
						大学に承継研究職員としてresearchmapに登録されている研究者の研究業績のうち、DOIが付与されている査読付き論文と競争的資金獲得研究題目に関して、本人性を90%以上特定する技術を開発。誤りがある場合には本人が容易に修正できるユーザインタフェースを開発。(令和3年度完了)	平成28年末	目標値 (単位:率)		60%	80%	90%	92%	95%	b	b
							未実施	実績値 (単位:率)		58.02%	93.33%	93.33%				
							-	達成状況(率)		96.7%	116.7%	103.7%	98.2%			
						researchmapが提供するAPIを取得し、大学の機能強化に利用する大学等研究機関数(令和3年度完了)	平成28年度末	目標値 (単位:機関数(累積))		165	175	200	250	300	b	b
							149	実績値 (単位:機関数(累積))		165	176	178				
							119.5%	達成状況(率)		100.0%	100.6%	89.0%	59.3%			
						大規模学術論文情報に基づくグラフデータベースの利用機関数及び、これに基づく研究分野の多様性等に着目した新指標の利用機関数(令和3年度完了)	平成28年度	目標値 (単位:機関数(累積))		5	5	5	20	20	b	b
							未実施	実績値 (単位:機関数(累積))		5	5	9				
							-	達成状況(率)		100.0%	100.0%	180.0%	45.0%			

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
								目標値 (単位:台/年)	実績値 (単位:台/年)	達成状況 (率)	目標値 (単位:回/年)	実績値 (単位:回/年)	達成状況 (率)			目標値 (単位:会議等/年)
90	情報・システム研究機構	1	4	多点大型レーダー観測計画の推進	世界最高性能の大型大気レーダーによる北極域大気圏の3次元高解像度観測を目指すEISCAT_3D計画に日本の代表機関として参加し、北極圏の気候変動や宇宙天気研究をはじめ、幅広い理工学分野において先端的国際共同研究をリードする。	①日本に要請されている役割(EISCAT_3D用送信機の開発と国際共同による10,000台製造・配備)を着実に進捗により、EISCAT_3D計画の推進に貢献【開発・配備の進捗度】	平成27年度末	目標値 (単位:台/年)	技術実証用 19台	技術実証用 55台	量産試験用 16台	量産試験用 32台(H30からの繰越分含む)	本格整備用 5,000台	本格整備用 5,000台	b	b
							未実施	実績値 (単位:台/年)	技術実証用 19台	技術実証用 55台	0	量産試験用 32台				
							-	達成状況 (率)	100.0%	100.0%	-	100.0%				
						②国内外の関連コミュニティとの連携状況【EISCAT国際・国内研究会実施回数】	平成27年度末	目標値 (単位:回/年)	2 (国内研究会:2 国際研究会:0)	2 (国内研究会:2 国際研究会:0)	2 (国内研究会:2 国際研究会:0)	3 (国内研究会:3 国際研究会:0)	3 (国内研究会:3 国際研究会:0)	5 (国内研究会:4 国際研究会:1)	b	b
							2 (国内研究会:2 国際研究会:0)	実績値 (単位:回/年)	2 (国内研究会:2 国際研究会:0)	3 (国内研究会:2 国際研究会:1)	2 (国内研究会:2 国際研究会:0)	3 (国内研究会:0 国際研究会:3)				
							150.0%	達成状況 (率)	100.0%	150.0%	100.0%	100.0%		60.0%		
						③国際プロジェクトへの参加状況や国際的な研究機関としてのベンチマーク【EISCAT_3Dプロジェクト内各種会議・委員会等への参画状況】	平成27年度末	目標値 (単位:会議等/年)	4	4	4	4	4	8	b	b
							4	実績値 (単位:会議等/年)	4	8	6	5				
							125.0%	達成状況 (率)	100.0%	200.0%	150.0%	125.0%		62.5%		
						④プロジェクトレベルで外国人を含む外部評価の実施状況【EISCAT_3D用送信機等の設計製作段階における外部審査の実施状況】	平成27年度末	目標値 (単位:回/年)	1	1	1	1	1	1	b	b
							0	実績値 (単位:回/年)	1	1	2	1				
							-	達成状況 (率)	100.0%	100.0%	200.0%	100.0%		100.0%		

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)			
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度					
90	情報・システム研究機構	3	5	北極域研究拠点整備推進事業-ノルウェー・ニーオルスン新基地整備による北極域の研究観測の強化-	ノルウェー政府と連携して、最新設備と研究支援要員を備えた北極域研究の中核拠点を構築し、温暖化・環境変動メカニズムとその影響の解明を加速して北極域研究を牽引するとともに、同拠点を国内外の研究者の利用に供し、また、専門的人材の育成にも取り組み、国際連携を促進して、我が国の大学等の機能強化の向上に貢献する。	国際連携の状況(外国人研究者の利用状況)	平成28年度	目標値 (単位:人日/年)			10	10	15	20	b	a		
							10	実績値 (単位:人日/年)			15	43						
							430.0%	達成状況 (率)			150.0%	430.0%		215.0%				
						国際連携の状況(国際共同観測件数)	平成28年度	目標値 (単位:件/年)			10	10	13	15			b	a
							10	実績値 (単位:件/年)			12	23						
							230.0%	達成状況 (率)			120.0%	230.0%		153.3%				
		共同利用・共同研究者数	平成28年度	目標値 (単位:人日/年)			330	330	360	400	b	b						
			330	実績値 (単位:人日/年)			283	514										
			155.8%	達成状況 (率)			85.8%	155.8%		128.5%								
		共同利用・共同研究成果(論文数、論文被引用数、図書、学術発表等)	平成28年度	目標値 (単位:件/年)			10	10	11	12			b	a				
			10	実績値 (単位:件/年)			26	20										
			200.0%	達成状況 (率)			260.0%	200.0%		166.7%								



法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段)基準時点 (中段)基準値 (下段)基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)			
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度					
90	情報・システム研究機構	3	7	大学間連携に基づく情報セキュリティ体制の基盤構築～学術情報ネットワーク俯瞰型実習による総合サイバーセキュリティ人材養成～	大学間連携に基づき、総合サイバーセキュリティ人材を養成すると同時に、本事業に参加する国立大学の24時間365日の監視体制の実現及びサイバー攻撃検知から15分以内に攻撃先の国立大学等への第一報通知を行うなど、情報セキュリティ基盤の質の向上を図る。また、サイバーセキュリティの研究センターを設置し、攻撃検知・防御能力の研究成果を適用し、全ての学術研究分野に対する安心・安全な教育研究環境を提供する。	サイバーセキュリティ監視環境の構築(サイバー攻撃検知から第一報通知までの時間)	平成27年度末	目標値 (単位:分)	(準備)	60	55	50	30	15	b	b		
							未実施	実績値 (単位:分)	平成28年度は準備期間のため未実施	60	53	42						
							-	達成状況(率)		100.0%	103.8%	119.0%		35.7%				
						総合サイバーセキュリティ人材の育成者数(研究基盤の利用法についての講習会の開催状況など)	平成27年度末	目標値 (単位:人(累積))	20	60	70	80	90	100			b	a
							未実施	実績値 (単位:人(累積))	63	154	326	420						
							-	達成状況(率)	315.0%	256.7%	465.7%	525.0%		420.0%				
設置コース数と参加者数の両方による評価	平成27年度末	目標値 (単位:コース、名/年)		0(準備)	①4コースの設置、②総参加者5名以上	①4コースの設置、②総参加者5名以上	①4コースの設置、②総参加者5名以上	①4コースの設置、②総参加者5名以上	b	b								
	0	実績値 (単位:コース、名/年)		平成29年度は準備期間のため未実施	①4コースの設置、②総参加者153名	①4コースの設置、②総参加者9名												
	-	達成状況(率)			100.0%	100.0%		100.0%										

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		
								平成27年度末	目標値 (単位:回/年)	実績値 (単位:回/年)	達成状況 (率)	平成27年度末	目標値 (単位:組織(累積))		
					医学・医療分野に特化した統計公開講座の開催	平成27年度末	目標値 (単位:回/年)		0	5	5	5	5	b	a
				0		実績値 (単位:回/年)		関連講座を7回、特化講座を2回開催	関連講座を3回、特化講座を5回開催	関連講座を4回、特化講座を5回開催					
				-		達成状況 (率)			160.0%	180.0%		180.0%			
					共用教材クラウドサーバーおよびe-ラーニングの利用組織数	平成27年度末	目標値 (単位:組織(累積))		0(準備)	3	7	10	10	b	a
				0		実績値 (単位:組織(累積))		平成29年度は教材開発期間のため利用組織数0	3	46					
				-		達成状況 (率)			100.0%	657.1%		460.0%			
					健康科学領域における全国大学研究者ネットワークの活動実績件数として全体シンポジウムと専門分科会の開催数	平成27年度末	目標値 (単位:回/年)		①2回、②分科会1度以上	①2回、②分科会1度以上	①2回、②分科会1度以上	①2回、②分科会1度以上	①2回、②分科会1度以上	b	b
				年1回		実績値 (単位:回/年)		①2回、②分科会2度	①2回、②分科会2度	①2回、②分科会1回					
				-		達成状況 (率)		100.0%	100.0%	100.0%		100.0%			
					統計専門人材育成ネットワークへの参加組織数	平成27年度末	目標値 (単位:組織(累積))		0(準備)	30	30	30	30	b	a
				0		実績値 (単位:組織(累積))		平成29年度は未実施	81	89					
				-		達成状況 (率)			270.0%	296.7%		296.7%			

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)			
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度					
90	情報・システム研究機構	2	9	データ科学に基づくアジア地域を中心とした持続可能な環境資源管理と経済成長のための基盤形成	長期的な気候変動が環境および生態系に深刻な影響を及ぼす中、統計数理研究所が取り組んできたNOE (NetworkOfExcellence)形成事業のネットワーク型共同研究体制をベースとして、アジア地域を中心とした持続可能な環境およびこれに付随する資源の管理と経済成長のためのデータ科学に基づく戦略的国際ネットワーク基盤を形成する。	ネットワーク形成状況(ユースケース連携コンソーシアム参加機関数)	平成30年度末時点	目標値 (単位:組織(累積))				5組織	5組織	5組織	b	b		
							未実施 (0組織)	実績値 (単位:組織(累積))				5組織						
							-	達成状況(率)				100.0%		100.0%				
						ネットワーク形成状況(資源管理に係るNOE参加機関数)	平成30年度末時点	目標値 (単位:組織(累積))				6組織	7組織	8組織			b	b
							実施 (0組織)	実績値 (単位:組織(累積))				6組織						
							-	達成状況(率)				100.0%		75.0%				
		ワークショップ等開催状況(開催件数/参加者数)	平成30年度末時点	目標値 (単位:件/名(累積))				(3件) 80名	R1年度からの累計(6件) 160名	R1年度からの累計(9件) 240名	b	b						
			毎年度2~3件、80人強の参加	実績値 (単位:件/名(累積))				(4件) 151名										
			-	達成状況(率)				188.8%		62.9%								
		短期インターンシップ実施状況(招聘人数)	平成30年度末時点	目標値 (単位:名(累積))				R1年度は準備期間のため未実施	R2年度からの累計4名	R2年度からの累計8名			b	-				
			未実施 (0名)	実績値 (単位:名(累積))				R1年度は準備期間のため未実施										
			-	達成状況(率)														

法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
90	情報・システム研究機構	3	10	国際連携拠点DDBJの強化による大規模ゲノム解析環境のサービス拡充	遺伝研の大規模ゲノム解析共同利用基盤は国際DNA塩基配列データベース構築に用いられるとともに生命・医学系研究者に対するデータ解析用計算機資源提供の目的で運用されている。近年のデータ量およびユーザーの急増に対応するために、ハードウェアおよびデータベース構築・解析システムの強化を行う。これにより全国の大学等を支援するための共同利用基盤を強化し、ゲノム情報を基盤とする我が国の生命研究の大幅な促進を図る。	遺伝研スーパーコンピュータの利用登録者数の増加状況	平成27年度末	目標値 (単位:アカウント数/年)	820	840	860	880	900	920	b	b
							798	実績値 (単位:アカウント数/年)	856	928	1,095	1,102				
							138.1%	達成状況 (率)	104.4%	110.5%	127.3%	125.2%		119.8%		
						国際DNA塩基配列データベースが公開されているDDBJホームページの利用者数(月間ユニークIP数)の増加状況	平成27年平均	目標値 (単位:アドレス数/月平均)	20,214	20,214	25,000	25,000	25,000	25,000	b	b
							18,376	実績値 (単位:アドレス数/月平均)	22,207	23,958	21,866	24,473				
							133.2%	達成状況 (率)	109.9%	118.5%	87.5%	97.9%		97.9%		
						データベースやゲノム解析共同利用基盤の利用法についての講習会の開催回数	平成27年度	目標値 (単位:回数/年)	3	3	3	3	3	3	b	b
							2	実績値 (単位:回数/年)	3	3	4	4				
							200.0%	達成状況 (率)	100.0%	100.0%	133.3%	133.3%		133.3%		



法人番号	法人名	重点番号	取組番号	取組名	取組の概要	評価指標	(上段) 基準時点 (中段) 基準値 (下段) 基準値からの伸び率	目標値・実績値・達成状況						評価項目① (評価指標の適切性)	評価項目② (令和元年度の実績を踏まえた進捗状況)	
								H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
90	情報・システム研究機構	3	11	マイクロバイオーム研究支援基盤強化促進事業	本事業は、急発展するマイクロバイオーム研究の基盤となる、大規模かつ高精度なメタゲノム解析を支援するための機能強化を目的とする。メタゲノムデータの解析-蓄積-活用のサイクルを循環させ、マイクロバイオーム研究の基盤を構築し大学の国際競争力増強に貢献する。	①支援した課題数	平成29年度	目標値 (単位:課題/年)			4	4	4	4	b	b
							2	実績値 (単位:課題/年)			6	6				
							300.0%	達成状況 (率)			150.0%	150.0%		150.0%		
						②微生物統合DBならびにDDBJ公共DBに収録される、解析サンプルデータ数の状況	平成29年度	目標値 (単位:件/年)			40	40	40	40	b	b
							16	実績値 (単位:件/年)			165	47				
							293.8%	達成状況 (率)			412.5%	117.5%		117.5%		
						③微生物統合DBへの年度毎の総アクセス数	平成29年度	目標値 (単位:件/年)			77,000	80,000	80,000	80,000	b	a
							70,000	実績値 (単位:件/年)			117,507	129,941				
							185.6%	達成状況 (率)			152.6%	162.4%		162.4%		